

令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 日置地区 協議記録

日 時	2025年11月6日（木） 18:00～20:00
場 所	日置公民館

参加者：27名

【開会のあいさつ】

糸矢区長会会長：

地震から1年10ヶ月が経ち、当初に比べるとまちが変わってきたが、まだまだやらなければならぬことが沢山ある。これからも時間はかかるが一歩ずつ前に進むと信じている。今日は地区別の復旧計画の説明をいただく。これまで検討してきたことがどこまで進んでいるのか確認していきたい。また、課題として抱えていることについて、言い残しの無いように質問等をお願いしたい。

市長：

昨年度から「新たなまちのかたち」について議論を重ねている。公費解体も進んでおり、日置地区では93.8%が完了している。被害は大きいが、災いを転じることが重要であり、より安全で快適なまちにしていかなければならない。

また、人口減少も著しく、珠洲市は発災から2,000人ほど減少しており、減少率は16%である。人口を維持していくためにも、1日も早い復旧と、安定した住まいを確保する対策を検討する。

本日は、地区別プラン策定に関する意見交換会であり、復興公営住宅をどこでどういった形で整えていくのか、また、皆様方の復興に向けたアイデアを入れ込み、日置地区の「新たなまちのかたち」を固め、具体的に進めていきたい。復興公営住宅については、現在4回目の意向調査を実施中であるが、回答率は7割程度である。詳細に把握できるよう、個別に意見を聞きに回っているところである。

皆様方から復旧・復興に向けて様々なご意見を頂戴し、より魅力ある最先端の復興につなげていく。

【復興計画案の説明】

資料1 復旧・復興箇所図

【参加者からの意見】

参加者：

山田橋は、現状のまま残すのか。

石川県：

現状のまま残す。県道のルートを変更して新設し、山田橋を渡る旧道となる部分については、工事完了後、市道として管理する。

参加者：

木ノ浦方面のことであるが、前は海で後ろは急な崖、住宅もある。地震、豪雨以降、少しでも雨が降ると木ノ浦海水浴場背後の山から鉄砲水みたいに水が流れてくる。背後地は昔、池があったところであり、水路の下をくぐった状態で流れている。また、雨が降るたび横の崖が少しづつ崩れている。地震前

から何回か市や県の職員が見に来られたが、対策の返事がまだない。今年の4月にも見に来たが、その後どうするかという話がない。実際生活している人もいる。

石川県：

当該区域は、木ノ浦地すべり区域に指定されており、発災前から側溝清掃等の対策はしていたが、発災後は、上流からの水が上手く流入せず、更にオーバーフローしている状態になっている。調査を行い、災害復旧に併せて水路の補修をする予定である。

参加者：

折戸海岸の護岸について、折戸大橋から狼煙方面においては、発災後の隆起によって、護岸が崩れている。折戸大橋から木ノ浦方面においては、護岸が崩れ、海岸が隆起し、その砂が飛散して民家まで入っている。土のうで対応していただいているが、改善は見込めていない。

石川県：

折戸大橋から狼煙方面においては、折戸漁港の漁港海岸という扱いであり、県事業で復旧を行う。ただし、道路と合わせて工事を進めるため、時期は令和9年度以降になる予定である。まずは、なりわいの復旧を最優先とし、船着き場の整備を進めている。

折戸大橋から木ノ浦方面の道路においては、復旧のために護岸を海岸に出し道路幅員を確保する。時期は橋の架け替え後となる。砂の飛散については、路面掃除や土のうを積むなど対策は講じているが、今年の冬も護岸整備には着手できないため、土のうを2段に積む等の対策を講じていきたい。

参加者：

木ノ浦ビレッジは、大雨で一番手前の部屋の基礎が丸見えになった状態である。お客様も泊められないため対策を考えてほしい。

市長：

木ノ浦ビレッジについては、県と協力し法面の復旧から進める。しっかり復旧し、ご利用いただけるようにする。

参加者：

応急仮設住宅、復興公営住宅の予定地へのアクセスについて、3つのルートがあるが、いずれも勾配が非常にきつい。勾配を緩くするなど対策をしてほしい。

珠洲市：

現在、冬季の降雪時は塩化カルシウムをまいて対応している。まずは現地調査に入って、できるだけ早く方針を決め対応する。

浦市議会議員：

復興公営住宅の位置について、現在示した位置で問題無いのか。ボランティア等でここに来ているが、夏の暑い時は、急な坂を登り降りして大変であり、冬場は積雪などで危ない。車で送り迎えしたこともある。下の方（折戸川の河口付近）に住みたい方も多くいると聞いている。アンケートなどを丁寧に行い、慎重に検討していただきたい。

参加者：

今の位置で問題無い。下の方での整備は昨年9月の豪雨災害により浸水想定範囲が広がったため、すでに断念している。

市長：

示している案は、地域の皆さんとの議論を踏まえた提案と認識している。現在、意向調査を行っており、測量にも既に入っている。設計も進めていきたいと思っているが、よろしいか。

参加者：

問題ない。進めてほしい。

市長：

アクセス道路整備についてもご要望いただいたので、できるだけ早く方針を固める。

参加者：

具体的な復旧計画が示され安心した。日置地区全体で、まちづくりを一つのコンセプトで考えるのは非常に難しい。地区毎に特性があることを踏まえ、復興にどう繋げていくか、どんな形で戻していくか、まだ想像がつかないが、住民みんなで考えていきたい。折戸では、40～50代の青壮年の皆さんを中心になってスタートした組織があり、これをバックアップしながら進めたいという空気感が生まれている。

日置ハウスと復興公営住宅は日置4地区の拠点となる。この地域は農業と漁業が盛んで、舟小屋など、なりわいに直結するものを活用していくことができないかを考えている。景観条例に指定されたところでもあるため、簡単に復旧・復興で潰したくはない。舟小屋は私有財産であり公費解体を申請し一部解体したところもある。せっかくの舟小屋。今後のなりわいのことも踏まえ、若い人たちが活用したいということを考えている。そういうまちづくりを構想した場合、どこへそれを伝えればよいか。協力体制をお願いしたい。

市長：

ご提案のあった場所をどのように有効活用できるか検討していきたい。どれだけ土地が確保できるかということや、道路線形も変わる予定であるので、何が整備できるか考えていきたい。

参加者：

工事予定が4年くらい先になるが、工事が完成した後にアイデアを提案しても間に合わない。工事が進捗していく過程で、行政と話し合う場を提供いただければ、若い人たちが復興に参画する良いきっかけになる。協力していただければと思う。

珠洲市：

歴史あるこのまちを今後どうしていくのか。復興公営住宅も予定され、これも「新たなまちのかたち」をつくるきっかけとなる。地域の方々と議論させてもらう場を検討させていただく。

市長：

復興に際して、区長会会長から職員の応援要請をいただいていた。今、地域おこし協力隊を2名委嘱

しており、今後、各地区のプラン策定に関するアイデア出しに参加する等、一緒に進めていく。また、進捗に併せて市役所内部の組織も見直しをかけていきたい。

参加者：

復旧が遅い遅いと言われているのが非常に気になる。住民と行政がしっかりとタッグを組めるような組織を作っていただきたい。

市長：

復旧を迅速に進める。入札しても応札がない、業者の手が回らないなど思ったように進まないが、改善できるよう工夫しながらやっていく。復旧が終わらなからしたら、復興に向けた取組みは遅れてしまう。復旧を進めながら、次の復興に向けた取組みを同時進行でできるように考えたい。アイデアを出していただきたい。

参加者：

折戸では、40代、50代の5、6人が中心となり、まちづくりの議論を進めている。お年寄りの方にも入ってもらい意見を聞くなど話をしている。新聞を作って、仮設や在宅の人に配っている。今後、避難している人、珠洲から出ている人の住所が分かれば、その人達にも送ればどうかとの話も出ている。10月11日には立派な花火も上げた。若い人が計画して実行している。会議には30人程度集まる。ただし、その時にお茶を用意するなどのお金もない。地区からは少しお金を出しているが、あとは集めた寸志程度である。制度、補助など活用できるものはないか。

珠洲市：

まちづくりの取組みに対し市の支援制度がある。一度お話を伺い対応させていただく。総務課でも対応しているので、相談の上、活用いただきたい。

市長：

どのような手続きで、どのような形で補助金が出るか、明日ご連絡する。

参加者：

大谷・狼煙方面で作業している解体業者について、折戸を回って山道を抜けてくるのだがスピードが速い。畳や戸が落ちている。後の始末は誰がやるのか。道路管理者にお願いすればよいのか。

市長：

何度も申し入れはしている。再度、環境建設課から、解体協会に話をしておく。

参加者：

唐笠へ向かう道路の道路復旧について、図面では伝えづらい箇所で地割れが発生している。現地に直接来ていただき説明したい。

市長：

復旧箇所に漏れがあつてはいけない。まずは現地確認するので、明日連絡する。

参加者：

橋の工事の順番を確認したい。前川橋と元川橋は市道に架かっており、これは令和7年7月に工事完了している。今後、前川新橋の架け替えを行った後、元川の復旧という認識でよいか。

珠洲市：

市道に架かる前川橋と元川橋は補修程度であり復旧を終えている。前川新橋は県事業で、令和8年から架け替え開始予定。元川は河川の復旧工事であり橋の復旧ではないが、連携して進める。

参加者：

狼煙地内の県道大谷・狼煙・飯田線は、令和7年度中に完了ではなく、順次、発注をかけるという認識で良いか。

石川県：

その認識で良い。

参加者：

灯台に向かう道路（階段）及び遊歩道の崩落箇所は県事業となるのか。どのような復旧計画になつているのか直接説明に来てほしい。

珠洲市：

一部市道であるが、工事復旧は県が行う。

石川県：

該当の階段と遊歩道は、特定公園内にあるものであり、県の自然環境課の管轄であるため県の事業となる。地元説明については、担当者と相談する。

糸矢区長会長

復興公営住宅は中島地区内に10戸程度建設予定であり測量が進んでいる。この場所は県の景観条例で、新しく建物を建てる時には、瓦ぶき、下見板張りがルールとなっている。いつ頃着工し、いつ完成する予定か。仮設に入っている人の大きな関心事である。

珠洲市：

令和7年3月に「珠洲市災害公営住宅整備方針」を作成しており、その中にも県の景観条例を遵守するという記載をしている。

糸矢区長会長

住宅価格が高騰している。自宅を再建したくても、20坪で3000～4000万円と言われている。例えば生コン等資材の価格は金沢より珠洲市の方が高い。労務費についても、珠洲で作業すると人件費が多くかかってしまう。対策を何かできないか。県に生コンプラントの建設や、作業員の宿泊所を用意するなどの要望はできないか。

市長：

生コンプレントの建設は厳しいと思われる。東日本の事例を参照していると思うが、今回の珠洲のケースで考えると国の補助は苦しいところである。県に何か方法がないか相談する。

工事作業員の宿泊所については民間でも進めている。自力再建に関しては市で独自の上乗せ補助金を設け対応している。

参加者：

復興公営住宅について、狼煙では候補地の話があったが、川浦町はどうなるのか。

珠洲市：

川浦町への希望は、現時点の意向調査の集計で1件である。原則として10戸以上の住居を1団地とする整備方針としており、現状では整備は難しい。

市長：

復興公営住宅は基本的には10戸からを1団地としているが、できるだけご要望にお答えしたい。それぞれのコミュニティを大事にして整備していくと思うと、住宅の設置場所が多くなる。箇所が増えると、用地造成等の費用も多くかかってしまうという課題もある。国の補助制度として標準建設費の3/4を国が負担、1/4を市が負担することになるが、標準建設費を超える建築費用は、市の負担となるため、実質的な国の補助は半分にもならないこともある。

参加者：

1人のために復興公営住宅を建てるのは経費がかかるることは分かるが、住宅が無いと珠洲に戻ってこないという選択をする人も増えてしまう。なるべく住民の希望に添えられるように対応をしてほしい。

市長：

川浦町のロケーションは素晴らしい。復興公営住宅ではなくても、そこに宿泊したい方もいるような場所である。東日本の事例では、整備をしたが今では空き家になっているところが多い。そういう時に新たに住みたいと思えるような復興公営住宅を造っていくことも大事である。それぞれの地域をどう再生していくかということが重要で、川浦町に復興公営住宅が建てられればよい。現在、意向調査の結果では1戸であるが、未回収の3割の中に川浦町の方もいるかもしれない。意向調査の結果をみて川浦町の方針を判断したい。

珠洲市：

市民の皆さんには、お一人お一人に納得していただけるよう、珠洲市内であろうと、珠洲を離れた場所であろうと自立していただけるような活動をしている。珠洲を離れたところにいる方に対しては、社会福祉協議会を通じてお話を伺っているほか、ふるさとバスで来ていただいた方の悩みを聞くことも行っている。珠洲を離れた方についても、きめ細やかに接していくたいと思っているため、困っている方がいらっしゃったら、お気軽にご相談いただきたい。

参加者：

東山中集落について、地区協議会の中で、水道施設と小水力発電を検討していただける話があったが、市で協議中なのか。東山中の飲料水供給の水量からすると十分可能だと考える。人口は40人から50人

ぐらいはカバーできる。

市長：

オフグリッドの話は市が主体的に進めるが、まずは復興公営住宅をどこにどういう形で整備していくか、道路の拡幅や線形の変更についても固めていきたい。同時進行で小水力発電機の設置も検討していく。現時点でどこまで検討が進んでいるか確認する。

参加者：

狼煙の県道に関し、ブロック積みの擁壁が崩れた箇所の状況について、もう一度聞かせてほしい。

石川県：

一度発注したが、落札せず業者が決まっていない。再度入札発注する予定である。今年度に発注し来年工事が終わるようにしたい。危険な状態のため、業者が決まり次第、早急に工事を進める。

市長：

折戸の護岸は元の高さに戻すのか。高くなるのか。

石川県：

元の高さに戻す計画である。津波想定を考慮しても今の高さで充分であると判断している。海側に少し出して復旧することで道路は拡幅するが、護岸を高くすることは景観的には良くないと思われる。

市長：

様々なご意見、ご要望ありがとうございました。これからも皆さんとともに考えて進めていきたい。復興公営住宅については、できるだけ年内に整備計画を固めていきたい。川浦町についても、意向調査を考慮しながら進める。補助制度もあとでご案内する。進捗を何らかの方法でお伝えする機会を設け、皆さんと議論を交わしながらアイデアを出していきたいと思う。本日はありがとうございました。

以上